

冬の星空

～ 星雲・星団編 ～

冬見ることの出来る星雲・星団は、非常に見ごたえのあるものがたくさんあります。その中から3つ紹介します。1つはちょっと珍しい星雲です。

M42・オリオン大星雲



M42・オリオン大星雲

オリオン座の三ツ星の左の星の下に、さらに3つ星があります。ここを「小三ツ星」といいます。この小三ツ星の真ん中に、雲のようなボーンとしたものがあります。街明かり、月明かりがなければ、肉眼で見ることが出来ます。ここにあるのが「M42・オリオン大星雲」です。中心部には「トラペジウム」と呼ばれる4つの星があります。この4つの星は若い星で、強力な紫外線によって星雲を輝かせています。この星雲は望遠鏡で見ると、鳥が羽を広げたような姿を見ることが出来ます。

また、空の条件が良ければ、色の違いもわかります。双眼鏡でも見ごたえのある星雲ですので、持っている人はぜひ小三ツ星に双眼鏡を向けてみてください。

M45・プレアデス星団(すばる)

おうし座の背中にある星の集まり・星団です。昔から知られていた星団で、清少納言の「枕草子」には「星はすばる・・・」と書かれています。「すばる」には「結ぶ」や「集まる」といった意味があります。すばるは若い星の集まりで年齢は約1億歳です。望遠鏡で見ると、空の状態が良ければ青いガスを見ることが出来ます。肉眼では5、6個見ることが出来ます。



M45・プレアデス星団(すばる)

視力の良い人では、10個以上見える人もいるようです。何個見えるのか、挑戦してみてください。望遠鏡で見るときは、低い倍率でみてください。

M1・かに星雲



M1・かに星雲

おうし座にある星雲です。この星雲は、重い星が一生の最期に起こす宇宙最大級の爆発現象「超新星爆発」を起こしたときの残骸です。その超新星爆発は、1054年に中国で記録されています。また、日本でも1180年から1235年に藤原定家によって記録された「明月記(めいげつき)」に、過去に出現した「客星(かくせい)」の一つとして記されています。客星とは、ふだん見慣れない星をいいます。明月記には、非常に明るく昼間でも見ることができた、とあります。

「かに星雲」の名前の由来ですが、1844年ころイギリスのロズ卿が180cmの望遠鏡で観察した時、繊細なフィラメント構造が「かにの足」のように見えたことから付けられました。爆発した星の中心核は、中性子星(パルサー)として残っています。また、かに星雲は現在も速いスピードで広がっています。